

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は道の出先機関である農業改良普及センターに勤務しております。業務内容は農業者に対し有益な技術の調査研究と普及指導により、生産性や収益性を高め、農業者の経営はもとより、地域農業を発展させることです。限られた生産の 4 M を用いて普及成果を出すためには、指導地域と指導内容の重点化を図ることです。そのことにより効率的に成果を出し、それを他の地域に波及させます。そのためには業務内容の見える化と成果の共有が重要です。

農業試験場で開発された技術を現場に普及する事は勿論ですが、畜産(酪農)関係の技術は海外から数多く入ってきています。海外のコンサルタントによるセミナーや研修会などを通じ、海外の技術が全て国内で普及性が高いのだろうか、本当に農業者にとって有益なのだろうかという疑問を持っていました。農業者や地域農業にとって重要な事は単発技術の提案ではなく、有益な技術を体系的に組み立て、そしてわかりやすく農業者に普及し、成果を出す総合技術力が求められています。それが技術士の仕事と考えます。

私は公務員技術者として自ら技術の研鑽を図り農業者に対し、コストパフォーマンスの高い技術の判断と指導を行い、地域農業の振興に貢献したいと考えています。また、公務員技術者には、質の高い評価を行えるだけの技術レベルを持つことが求められ、国民に対し説明する義務があります。今後も ATM (明るく、楽しく、前向きに) をモットーに頑張りたいと思います。

椋本 正寿 (むくもと まさとし)

●農業部門(畜産)

勤務先

北海道渡島総合振興局 渡島農業改良普及センター渡島北部支所

⇒ 次号は、山木栄治さん(応用理学部門)



20 年間の土木工事従事を経て、品質・環境・安全のマネジメントシステム構築後、自社の経営計画策定・検証等の業務に携わりました。現在は、経営者の立場ですが、社内検査と総合評価方式の入札参加申請に伴う施工計画立案を主業務にしています。

四捨五入すると還暦の年齢ですが、2009 年(平成 21 年)度の技術士二次試験に連続 2 回目です。にか合格できました。先輩諸氏からは体験論文と口頭試験対策に多大なるご指導を賜り感謝申し上げます。技術士の名称は就職当初から知り得ていましたが、我々現場屋には無縁で雲上の資格だと思っていました。しかしながら同級生をはじめ社の後輩が取得するに至り自分にも手が届くのかかもしれないと思えるようになりました。暗に背中を押された気分でした。筆記試験では、実体験に照らして解けそうな設問に素直に解答できました。

論文形式での記述方法には起承転結や PDCA サイクルを意識した手法があると思いますが、受験勉強を通して特に「骨子法」なる手法に出会ったことが何よりの収穫でした。何事においても「現状・課題・問題点・解決策・展望」を的確に把握し、簡潔に表記できることが肝要だと知りました。思えば、自分の体験してきた業務には PDCA は勿論のこと骨子法が深く関わっていたのだと気付きました。これから受験される方は、テキスト等での勉強も大切ですが、日々の業務全てを生きた問題集とすることで、「仕事が忙しくて勉強時間が確保できない」という問題点は少なからず解決されると思うのです。

帯野 克文 (おびの かつふみ)

●建設部門(施工計画)

勤務先

札幌工業株式会社

⇒ 次号は、田中輝幸さん(建設部門)

